



J-PEAKS活動の今をお届けします

TAYORI



NEWS LETTER

VOL. 20
9 OCT, 2026



REPORT

大学経営人材サミットに参加しました！



2026年9月7日、
新潟大学主催・経団連後援
「大学経営人材サミット2026」
が東京コンベンションホール
で開催されました。
本学は新潟大学からの
オファーを受けサミットに
登壇しました。

当日は大学関係者・産業界・行政機関から約300名が参加し、URA・UAなど大学経営人材の育成をテーマに議論。内閣府・上山隆大本府参与からは「資金獲得・経営能力・人材流動性」の連動を提起が、東北大学のHCM室新設や新潟大学のUA独自人事制度など、各大学の制度化の取組等が紹介されました。また第2部のポスターセッションでは、本学のKINDプログラムを紹介し、他大学関係者や民間企業の方々からは目新しい取組として注目を集め、活発な意見交換で大いに盛り上がりました。次回は岡山大学が主催校となる予定です。

本学は既に九工大型URA制度導入のため、人事制度改革に着手しており、他大学に先行しているとの手応えを得ました。また単科工業大学ならではの意思決定の速さも強みだと感じられました。
(経営戦略室 松尾)



DISCUSSION

北九大吉村事務局長との打合せを実施しました！

9月10日に、J-PEAKS連携大学である北九州市立大学の吉村知泰理事・事務局長が九工大にお見えになりました。7月31日にK2BSの松永研究科長にJ-PEAKS勉強会の講師をお願いした関係で、吉村事務局長が九工大の人材育成に興味を持ってくださり、プロパーの事務職員・技術職員の育成に関する意見交換を行いました。ビジネススキルを中心に、北九大と九工大で合同の研修会と交流会を実施することで合意しました。詳細が決まりましたらご案内させていただきます。ご期待ください。

(経営戦略室 三宅)



J-PEAKS

立命館大学サイトビジットに参加しました！

立命館大学は「研究力・博士力・社会実装力・財政力」の4つの改革を連動させながら、J-PEAKS事業を進めているそうです。研究面では身体圏研究拠点CVICを整備し、若手研究教員8名が着任しました。博士人材の育成では、附属高校が主催する科学フェアなど、高校段階からの取組も紹介されました。社会実装面では外部資金100億円を目標に掲げ、1,000万円以上の受託・共同研究は年5件程度から10件以上に増えています。大学発スタートアップも193件（全国11位）に上り、自己資金によるファンド（10億円規模）と生命保険会社と連携したファンド（70億円規模）を使い分けて支援しています、と説明をいただきました。また、冒頭で学長が、達成できていないものも正直にお伝えすると前置きされ、未達の項目も含めてKPIが開示されていたことが印象に残りました。



サイトビジット前にはキャンパスツアーも行われ、各テーブルごとにモニターがある講義室や、グリーンバックが敷かれた本格的なスタジオなどを拝見できました。田舎者の私には驚きしかありませんでした。
(経営戦略室 山下)

// J-PEAKS現地調査の御礼 //

9月30日～10月2日までの3日間JSPSによる2025年度経理処理に係る現地調査が実施されました。大きな指摘はなく、内部監査についても「きちんとされている」とお褒めをいただきました。関係者のみなさまご協力ありがとうございました。

先日、大学における業務DXに関するシンポジウムに参加し、Fordham UniversityのCIOであるAnand Padmanabhan氏の講演を聞きました。

冒頭で「みなさんがこれまでの人生で一番つらい思いをしていた時に、見捨てずに寄り添ってくれた人は誰ですか？ 母親かもしれません、先生かもしれません。その方を思い浮かべながら私の話を聞いてください」と言われて、「え？ DXの話じゃないの？」と一瞬戸惑いましたが、その方はある学生の思い出話を始められました。

「サラという女子学生がいました。家族で初めて大学に進学した学生で、1年の成績は良好でしたが、2年生の11月に父親が病気になり経済的に苦しくなりました。誰に相談すればよいかわからず、講義には出席していたものの、課題の提出が遅れがちになりました。結局、3月に退学。退学理由として『一身上の都合』とだけ記載されていました。大学のシステムには彼女の苦しい状況を示唆するデータがたくさん残っていたにも関わらず、在学中の彼女に誰もcallしませんでした」と、その時の大きな後悔を述べられ、そして、「教育DXは、彼女のような学生に寄り添う人の時間を作るために存在し、そしてシステムそのものが彼女に寄り添う存在であるべきである」と説明されました。「お金がないから業務DX」といつも主張している自分が少し恥ずかしくなりました。

MIYAKE
リエゾン
のつぶやき...

